



# あおり 町連だより

## 第233号

令和7年4月発行

青森市町会連合会

〒030-0801 青森市新町一丁目3-7

TEL 017(734)2584

FAX 017(734)2587

## 市政懇談会で市に要望

市政懇談会が令和7年1月20日、しあわせプラザで開かれました。青森市町会連合会は市民の日々の暮らしのなかで起きる問題を市に伝え、率直に意見を交わし、住みよいまちづくりに活かそうと毎年開催しています。

町会連合会から佐々木重光会長はじめ理事24名、市から西秀記市長、赤坂寛、横山英大の両副市長をはじめ市幹部が出席しました。

町会連合会を代表して副会長の松本勝義、鈴木茂、常任理事の今井敏昭、櫻田清博の4氏が①災害時の緊急避難先として高層ビルの活用を促進してはどうか②地域の安全安心確保の観点から防犯カメラをもっと増やせないか③町会の役員が高齢化し、このままでは活動がままならなくなる。市職員やOBに町会の運

避難先にビル／防犯カメラ／空き家：



西市長（右奥）ら市に要望を伝える町会連合会副会長たち

営に加わってもらおうよう呼び掛けをお願いしたい④市内で危険な空き家が目立っており空き家対策に本腰で取り組んでもらいたい⑤自転車用ヘルメット着用が努力義務となったが特に子どもたちの交通安全対策としてなお一層の普及活動を一など、質問や要望を行いました。

西市長や市からはこのうち、洪水、高潮、津波など災害時の避難場所については浸水想定区域外の安全な地域への水平避難が原則と説明。ただホテルやビルなどへの垂直避難では水が引くまで孤立化しかねない。水平、垂直それぞれ特徴をふまえ、市民に適切な行動を取るよう呼び掛けていくと答えました。

防犯カメラについては6年

度から増設を進めており、安心安全な地域づくりに役立てていくと約束しました。また町会活動への市職員参加については、民生委員の募集を含め職員研修や退職者の説明会など機会ある度に呼びかけている、と説明しました。

また空き家対策については実態調査を基に昨年9月に第二期計画を策定、所有者に文書発送などで適正な管理を求めており、引き続き関係団体と連携を深め、より一層空き家解消に努めていく方針を示しました。自転車用ヘルメット着用促進については教育委員会が令和5年12月に児童生徒の着用推進計画を策定したほか、高齢者を含め交通安全教室など広報啓発活動を強化していくと話しました。

このほか、市企画部の金谷浩光部長から令和6年度策定した「みんなで未来を育てるまちに」実現へ向けた総合計画の概要説明がありました。

青森で開催します。

7年度定時総会を5月29日  
(木) 午後1時からホテル

定時総会 5月29日

青森市町会連合会

# 活躍する女性部会

青森市町会連合会の女性部会は平成6年度(1994年、当時は婦人部会)の設立から30年を超えました。多方面での活躍ぶりを写真で紹介します。



防災テーマに段ボールベッドづくり



イベントに活かそうと金魚ねぶたづくり



毎年満席となる町内女性の集い



「終活」が話題となり勉強会を企画



## 大掛かりな防災訓練

—南部第9区

南部第9区連合町会は地区社協とともに令和6年10月14日、青森モータースクールで妙見地区防災訓練を実施、約70人が参加しました。

訓練は起震車も登場する大掛かりなもので、親子コーナーでは災害時に役立つ新聞紙のスリッパづくり、ごみ袋の雨がっぱづくり=写真上。起震車では震度7を体験し、「腰が抜けそう」「身体が動けない」と驚いていました=写真下。

また負傷者が出た時の搬送

訓練、避難に便利なデモカー試乗もありました。

## 訃報

西部第7区 石江江渡中町会  
町会長 吉川 宏 殿  
令和6年12月14日ご逝去

東部第9区 港町町会  
町会長 尾崎 俊作 殿  
令和7年1月1日ご逝去

中部第1区 舘貝町会  
町会長 中村 洋一 殿  
令和7年1月3日ご逝去

中部第2区 大町町会  
町会長 對馬 忠雄 殿  
令和7年1月12日ご逝去



三内第一町会

町会長 木立 精一

## 桜とスポーツ、散策も

当町会は、740世帯で構成されています。

緑豊かで桜並木の有る三内霊園や県運転免許センター、気軽にスポーツや散策を楽しむことができる沖館川多目的遊水地(リバーランドおきだて)に隣接しております。地域のシンボルとしての「三内八幡宮」が正徳4年(1714年)に再建された古くからの町会です。

明るく住みよい、安心安全なまちづくりを目指して、各種事業を展開しております。

以下、主な取り組みをいくつか紹介いたします。

## 納涼会や新年会

第一は町民の親睦・交流・児童の健全育成です。

夏の納涼会、1月の新年会には、多くの町民が参加しております。夏休み中は町内4か所でラジオ体操を実施しており、スタンプの押印は子どもたちが行き、町会、母親クラブの役員等が手伝って、児童の健全育成にも努めています。

## 5年ぶり子どもねぶた

令和6年7月にコロナ禍以来5年ぶりに「三内子どもねぶた」が町内を運行し、子ども



コロナ禍乗り越えねぶた運行



花壇づくりにみんなが協力



防災会の訓練、真剣に

もや父兄等多くの参加者を得ました。

第二は町内環境整備・美化活動です。常時、町会管理のゴミ集積所の点検、清掃や市管理の公園、空き地、三内共同墓地、三内八幡宮境内の草刈りの他、町内数箇所の花壇の花植え等にも取り組んでおります。

## 地域を守る防災会

第三は防災対策です。町民の皆様と一緒に地域を守るため、平成29年4月1日に三内第一町会防災会を発足させました。これまで、消火・搬送訓練、救命講習、簡易ベッドの作り方、避難用テントの組立等多岐に亘って訓練を実施してきました。「あんずましい三内地域の会」主催の防災研修会にも参加し、連携しております。

第四は愛着心の醸成です。少子高齢化、生活環境の変化等に伴い当町会も一人暮らし高齢者、空き家の増加や若年層の町会活動への参加促進等課題が出ています。

## 住みたい町会づくり

町内関係団体とも連携し、世代間の交流を図り、相互に支えあいながら、「住みたい、住んでいて良かった」と思える町会づくりを心掛けていきたいと思っております。

## ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。

アドレスは次の通りです。

<https://aomori-choukairen.jp>

下記二次元バーコードからもアクセスできます



## いにしへの「町名」「通り」を知ろう

近現代編⑭

## 佃地区にあった気象台



青森地方気象台庁舎  
(昭和35年版「市政要覧」より)

佃小学校の北に「つくだウェザーパーク」という公園があります。この公園は平成10年(1998)に青森市の市制100周年記念事業で造られました。公園内には市制100周年記念の石碑があります。

公園の名称は平成元年までこの場所にあった青森地方気象台に由来します。佃地区には「佃気象台町会」もあり、気象台が立地していたことを今に伝えています。

## 青森地方気象台の歴史

青森地方気象台は明治15年(1882)に青森測候所として青森県庁内に開設されました。明治44年には事務所を青森警察署内へ移しています。

昭和2年(1927)6月、川内町(現むつ市)の実業家・菊池與太郎が青森県に対し、所有する浜館村大字松森字佃(現青森市佃)の土地を測候所の建設用地として寄附しました。これを受けて新庁舎が

建設され、昭和3年1月1日に業務を開始しました。

その後、青森測候所は昭和14年に油川字大浜の新庁舎へ移りますが、昭和31年には再び松森字佃の庁舎へ移転し、翌年に青森地方気象台と改称しました。

そして、平成元年に現在地(花園一丁目)へ移転しています。

## 菊池與太郎と佃地区

青森測候所に勤務した和田英夫は『青森の気象百年』へ寄せた文章に「測候所のすぐ東側にあった佃野球場も、私たちの草野球のグラウンドとして忘れられない」と記しています。

佃野球場は大正13年(1924)に青森市野球界の有志によって建設された球場です。当時の新聞によれば、正式名称は「青松園佃運動場」といい、地図等には「佃グラウンド」と表記されることもありました。

この運動場の建設にも菊池與太郎が関わって

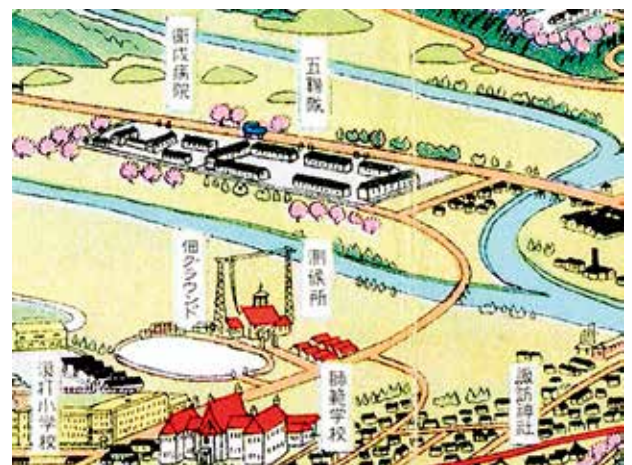
村上 亜弥編集委員  
(市民図書館歴史資料室)

いました。『青森県総覧』によると菊池は運動場の建設用地として1万坪の田地を購入したといえます。菊池は佃地区と深い関わりを持つ人物なのです。

佃運動場は全国中等学校優勝野球大会(夏の甲子園)の予選会場などとして利用され、佃地区は多くの青森市民が訪れる場所となりました。

## ランドマークの気象台

測候所正門から北へ伸びる道は「測候所通り」と呼ばれ、気象台と改称されてからは「気象台通り」と呼ばれました。気象庁監修の雑誌『気象』の356号(1986年12月発行)は、気象台正門前の商店街に「気象台通り」のノボリが立っていたことを紹介しています。気象台が地域のランドマークとして機能していたことがわかります。



測候所と佃グラウンド  
(昭和7年「青森市鳥観図」歴史資料室蔵)